

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅡ	チーム名	ヒガシマル
タイトル	なぜ、私たちは醤油を借りなくなったのか？		
テーマ群	a)理論・情報 c)公共経済		
メンバー	尼田旭 池内未沙 川口綾 川田紳太郎 川元勇哲 峠敦仁 立岩奈都実 谷山流満 内藤祐香 中村友洋		
研究計画内容	<p>私たちはご近所付き合いの価値を経済学的に検証します。</p> <p>古き良き日本の象徴、ご近所付き合い。「ちょっと奥さん醤油貸して！」「はいはい」こんな声が日本から聞こえなくなったのはいつからでしょうか。</p> <p>2010年に「無縁社会」が新語流行語大賞に選ばれるほど、日本の人間関係は時代が進むにつれて希薄化してきました。ご近所付き合いという一種の人間関係も例外ではありません。かつて日本では醤油の貸し借りは勿論のこと、子供の教育、防犯、介護などご近所同士で助け合い、協力して生活してきました。ご近所同士の助け合いはお互いにとって多くのメリットがあったといえます。ではなぜこのようなご近所付き合いは希薄になってしまったのでしょうか。ご近所付き合いという人間関係には家族関係、友人関係とは大きく異なる特徴があります。それは、物理的な距離のみがその関係を規定しているという特徴です。人が簡単に住む場所を変えられる現代において、物理的な距離だけで決まるご近所付き合いにはどのような価値があるのか私たちは興味を持ちました。</p> <p>具体的には以下の3点について考えていきます。</p> <p>① ご近所付き合いが希薄化してきたのはいつ頃からなのか。</p> <p>② 日本を取り巻く環境、高度経済成長以降の急速な財・サービス市場の拡大や交通網の発達による流通の拡大などの変化がご近所付き合いにどのような影響を与えたのか。</p> <p>③ ご近所付き合いの費用便益は何なのか。</p> <p>以上の3点を柱とし、現代の日本におけるご近所付き合いの度合いが及ぼす経済的影響はどのようなものか、何ものにも代えられないご近所付き合いの便益は存在するのかを考察していきます。</p> <p>そして、この研究の最終目的は、人間関係が希薄化している現代だからこそ、ご近所付き合いを見つめ直し、経済学的観点からご近所付き合いの素晴らしさを示すことです。</p>		